

2016年3月期第2四半期
決算説明会

荏 原 (6361)

2015年11月11日



1. 決算概要

執行役
経理財務担当

長峰 明彦

2. 今期の見通しと経営戦略

代表執行役社長

前田 東一

※ 本資料において、特に記載のない限り「第2四半期」「2Q」は4月1日～9月30日の6ヶ月累計期間とします。

(単位：億円)

	2015年3月期 第2四半期	2016年3月期 第2四半期	増減
受注高	2,272	2,427	+ 155
売上高	1,861	2,070	+ 209
営業利益	△ 6	46	+ 52
経常利益	△ 3	38	+ 41
親会社株主に帰属する 四半期純利益(※)	△ 19	13	+ 32

※ 2015年3月期 第2四半期は「四半期純利益」

為替レート
(平均)

1ドル = 105.4円

1ドル = 120.1円

1. 決算概要

2016年3月期第2四半期決算 事業セグメント別

(2/2)

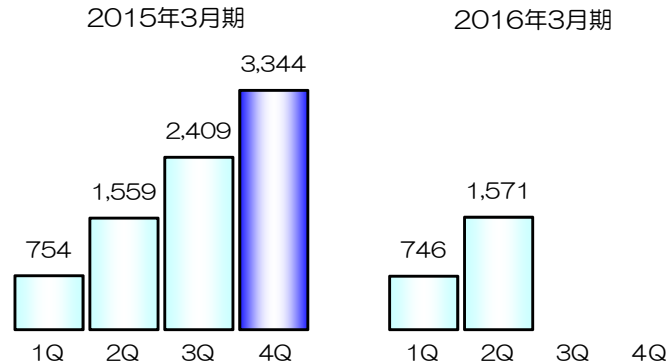
(単位：億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	2015年 3月期 2Q	2016年 3月期 2Q	増減	2015年 3月期 2Q	2016年 3月期 2Q	増減	2015年 3月期 2Q	2016年 3月期 2Q	増減
風水力事業	1,559	1,571	+ 12	1,315	1,387	+ 71	△ 31	△ 18	+ 12
エンジニア リング事業	388	348	△ 39	232	257	+ 24	10	14	+ 3
精密・電子 事業	316	498	+ 182	304	417	+ 113	10	47	+ 36
その他事業 調整	8	8	△ 0	8	8	△ 0	3	3	△ 0
合計	2,272	2,427	+ 155	1,861	2,070	+ 209	△ 6	46	+ 52

風水力事業

(単位：億円、各Qは累計)

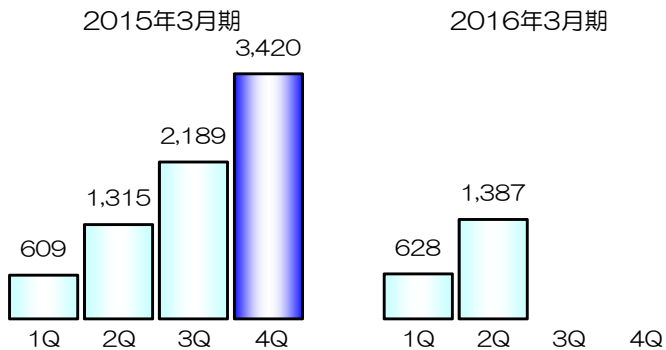
受注



【受注】

- ✓ ポンプ事業は海外カスタムポンプを中心に増加
- ✓ コンプレッサ・タービン事業では顧客の投資判断に遅れ

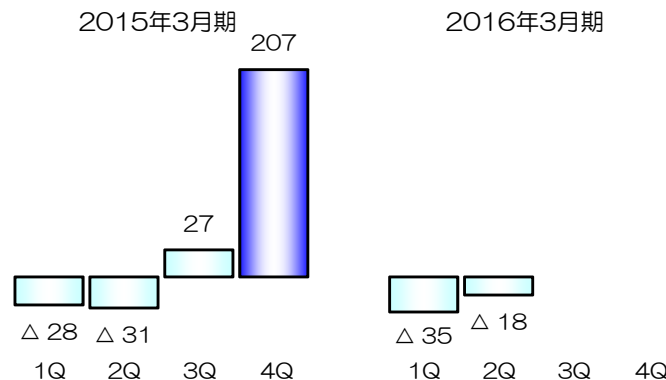
売上



【売上】

- ✓ ポンプ事業は円安もあり堅調
- ✓ コンプレッサ・タービン事業は下期偏重

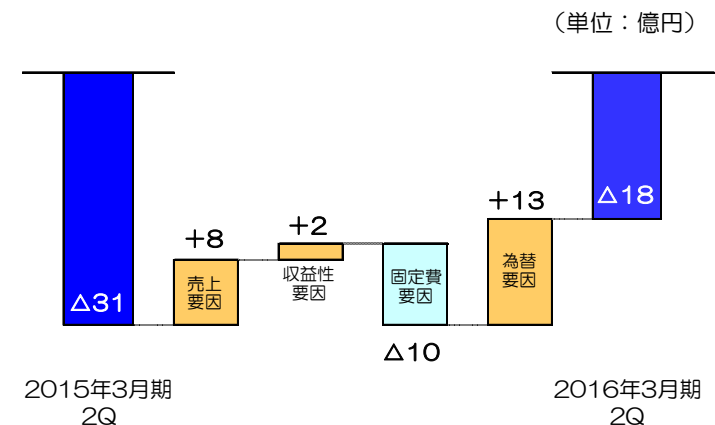
営業利益



【営業利益】

- ✓ 増収効果(+)
- ✓ 円安効果(+)
- ✓ ポンプ事業を中心に固定費の増加(-)

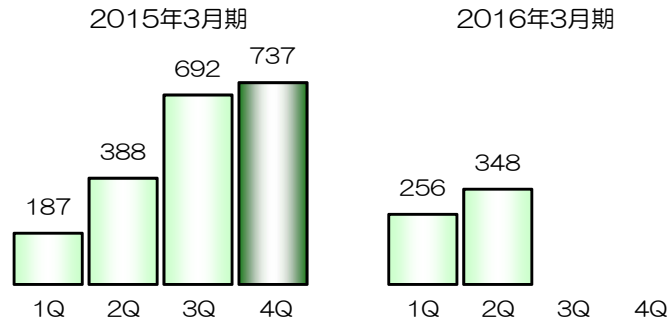
増減要因分析



エンジニアリング事業

(単位：億円、各Qは累計)

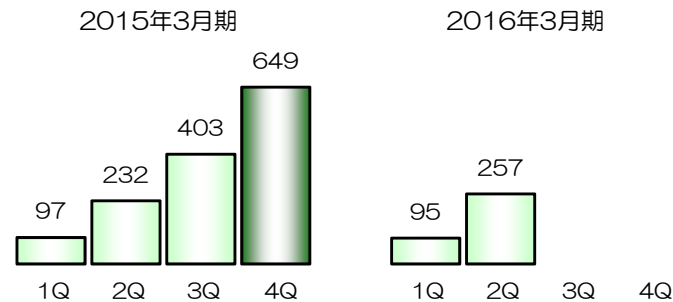
受注



【受注】

✓ EPC2件受注も、大型の延命化案件の受注少なく
全体では減少

売上



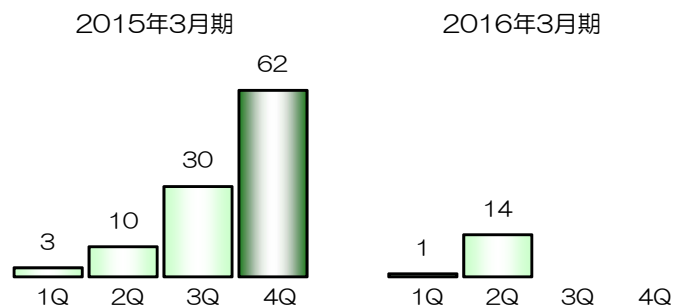
【売上】

✓ 主にEPCの売上が増加

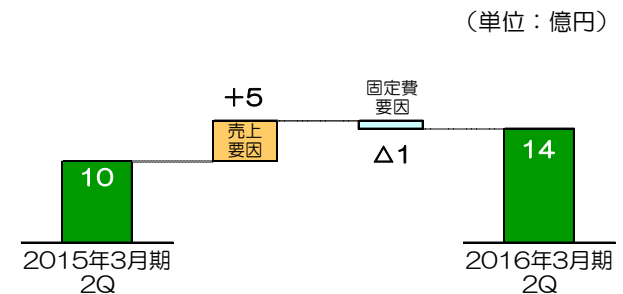
【営業利益】

✓ 増収効果(+)

営業利益



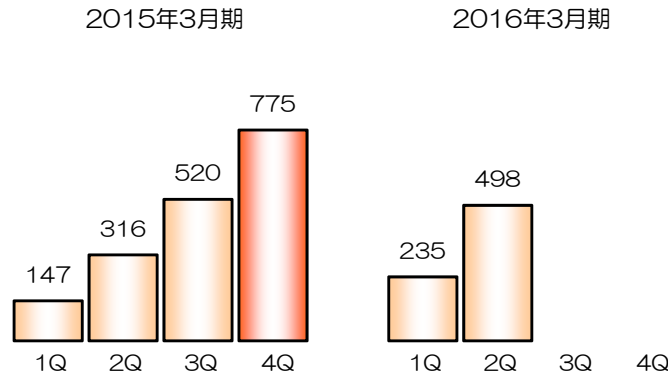
増減要因分析



精密・電子事業

(単位：億円、各Qは累計)

受注



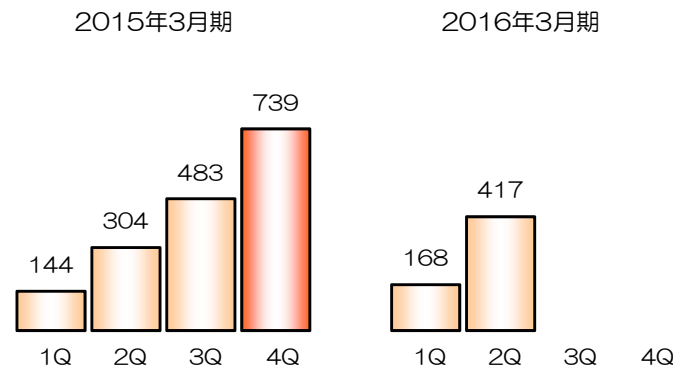
【受注、売上】

✓ 今上期は特にCMPの需要が高まり、顧客が設備投資を積極的に実行

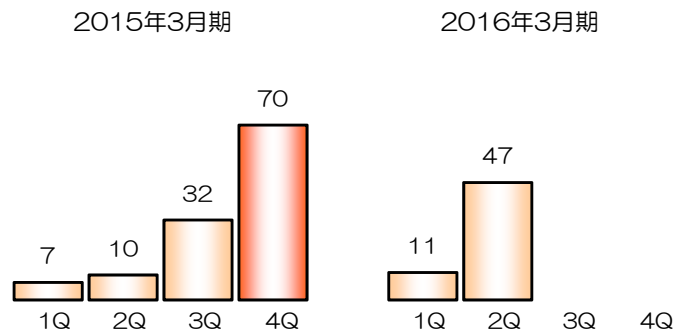
【営業利益】

✓ 増収効果(+)
✓ 円安効果(+)

売上

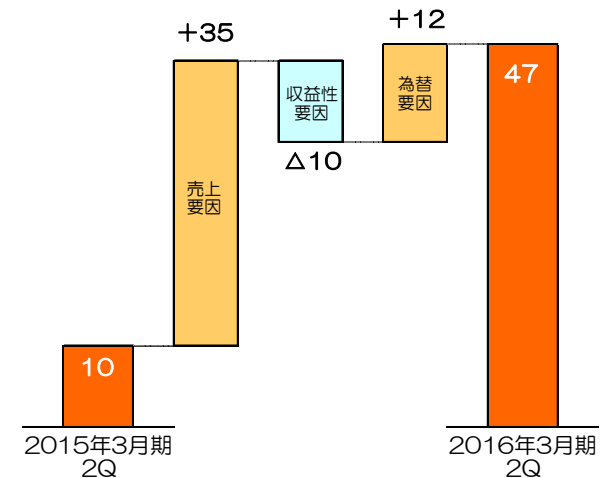


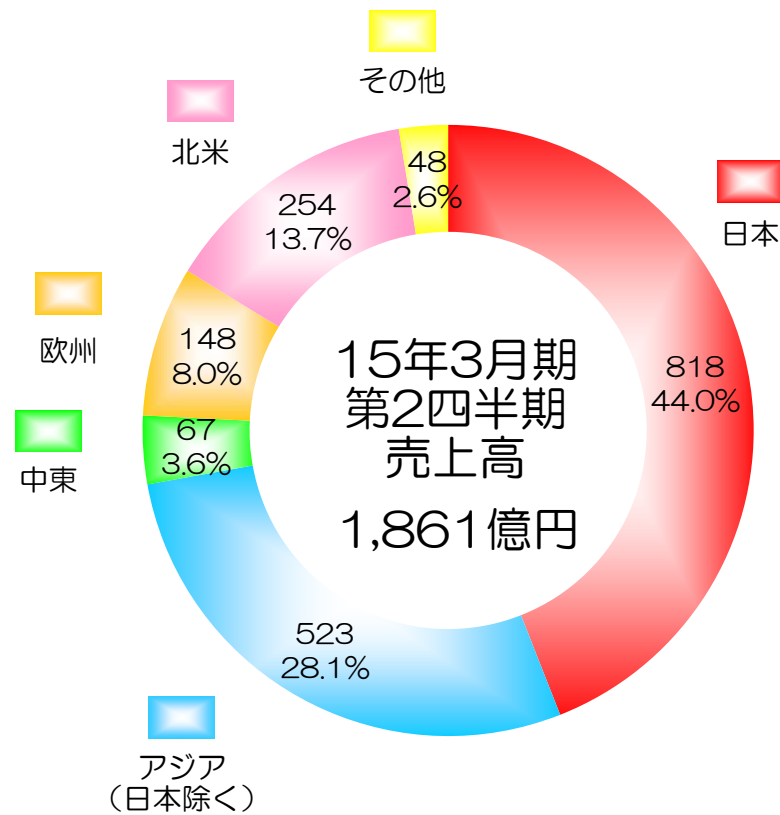
営業利益



増減要因分析

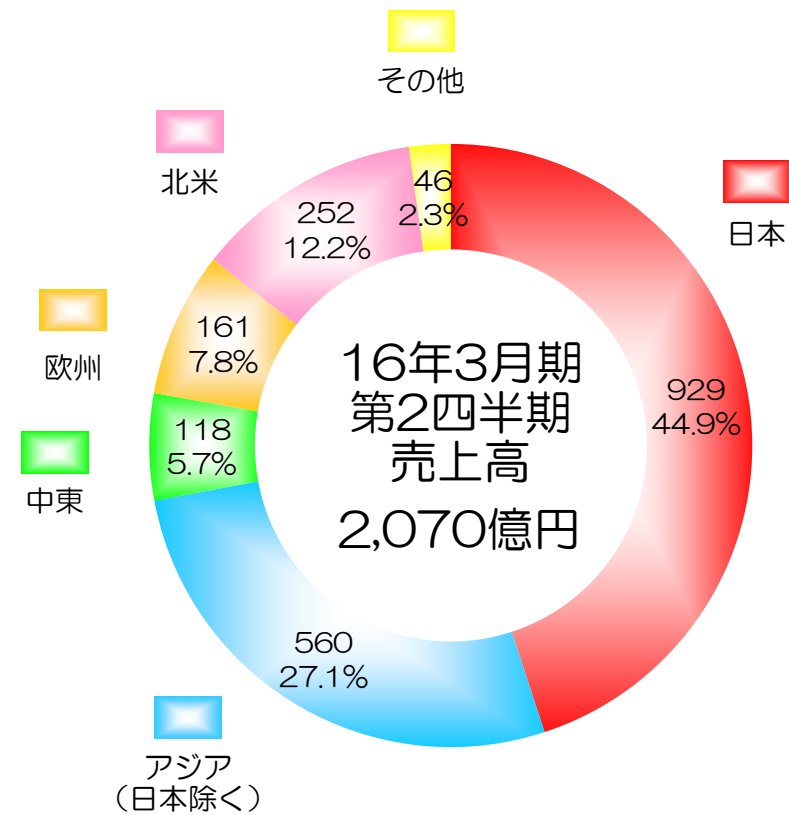
(単位：億円)





海外売上高
1,042億円

海外売上比率
56.0%



海外売上高
1,140億円

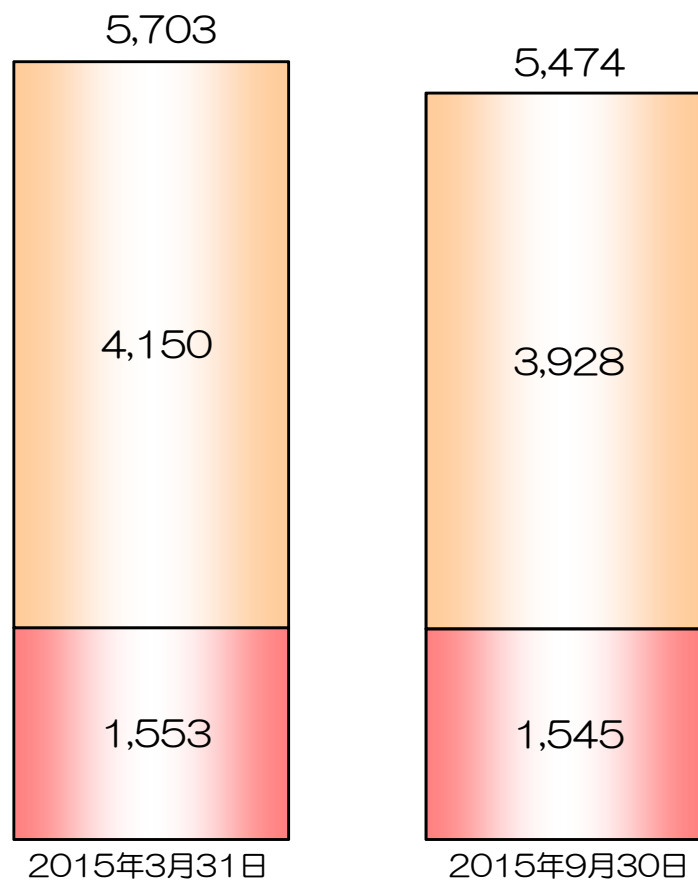
海外売上比率
55.1%



資産

- 流動資産
- 固定資産

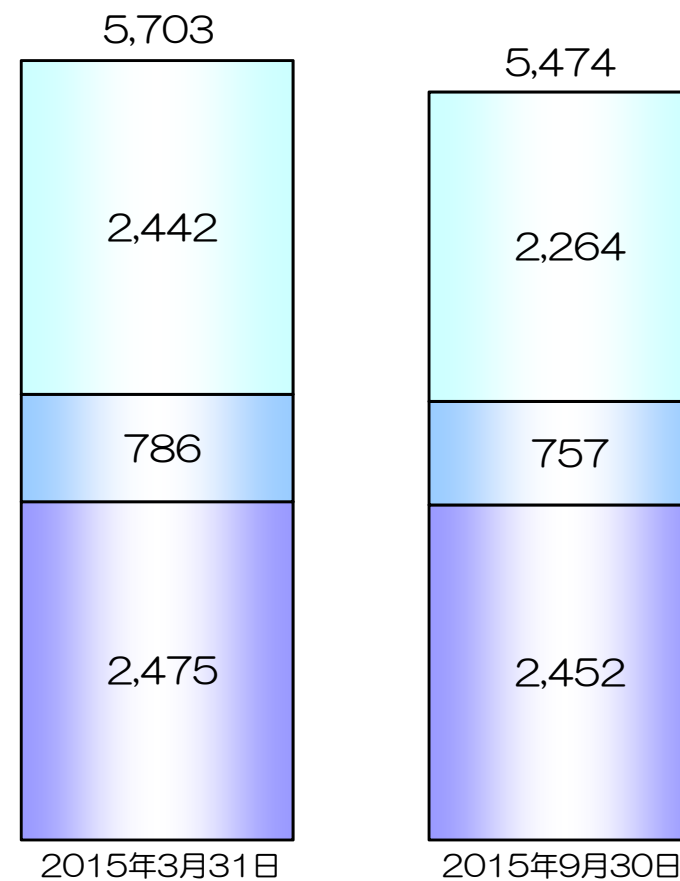
(単位：億円)



負債/純資産

- 流動負債
- 固定負債
- 純資産

(単位：億円)

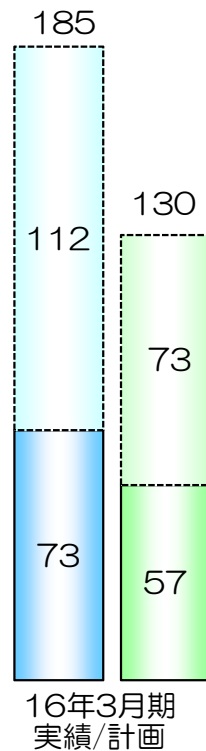
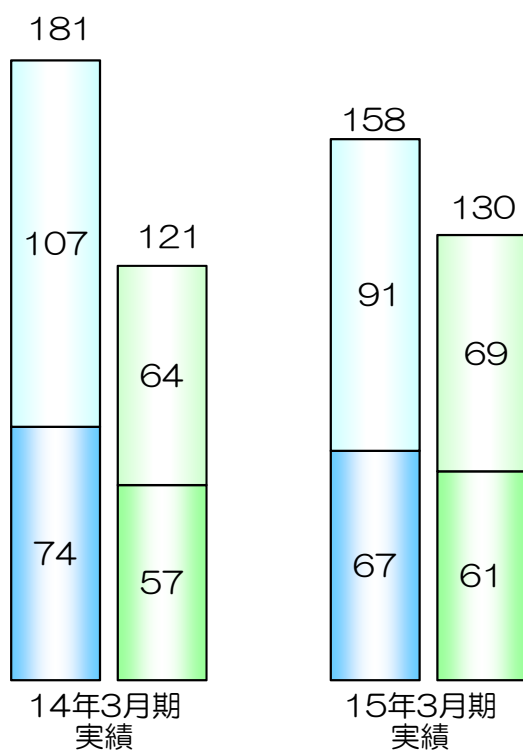


資本的支出・減価償却費

(期初計画から) 変更なし

- 資本的支出 (上期)
- 資本的支出 (下期)
- 減価償却費 (上期)
- 減価償却費 (下期)

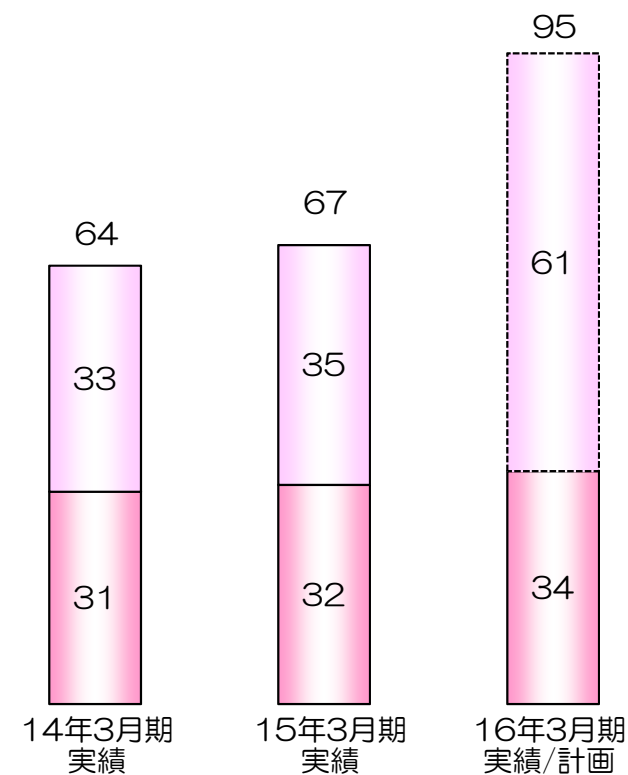
(単位：億円)



研究開発費

- 研究開発費 (上期)
- 研究開発費 (下期)

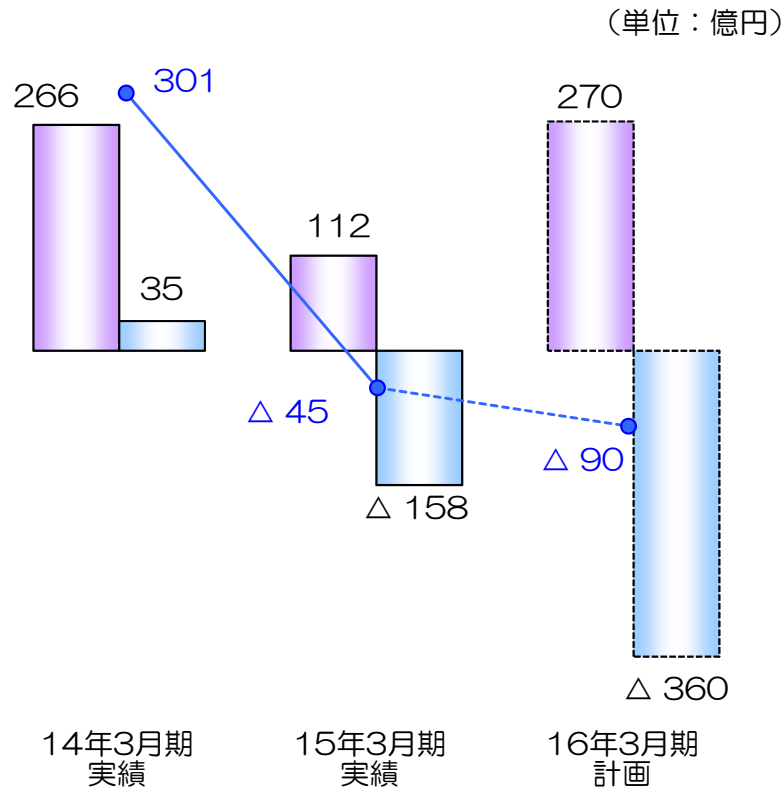
(単位：億円)



キャッシュ・フロー

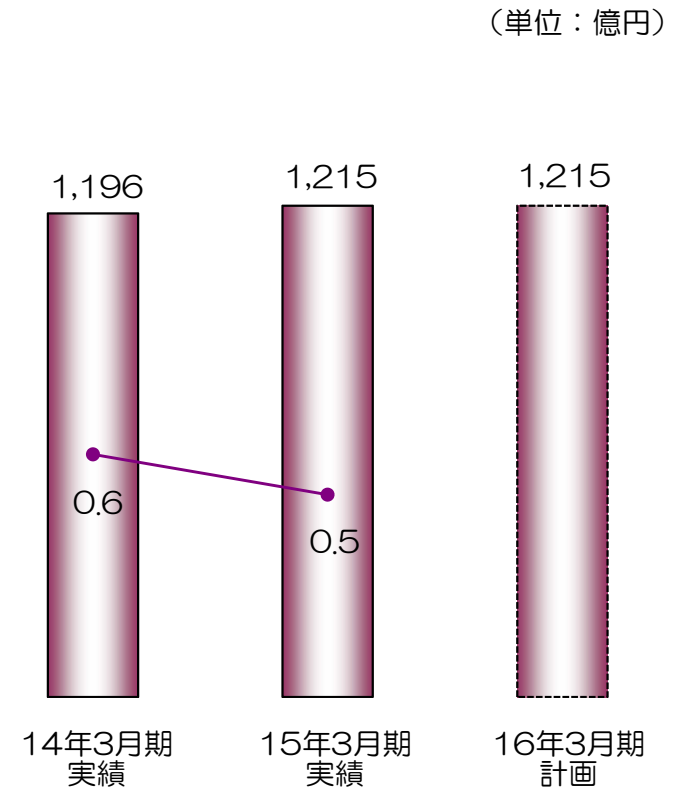
(期初計画から) 変更なし

- 営業活動キャッシュ・フロー
- 投資活動キャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー



有利子負債残高

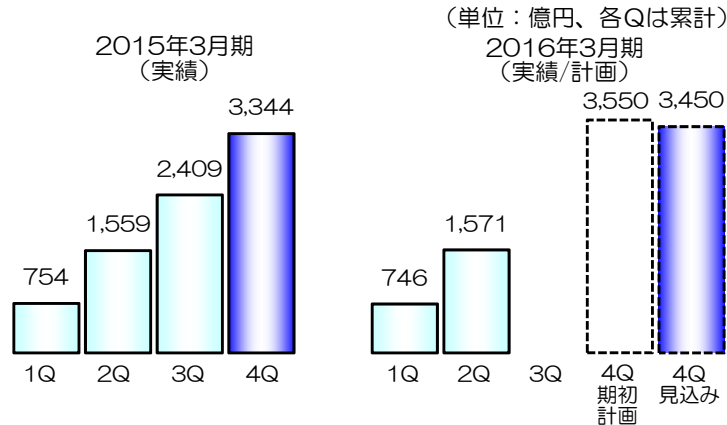
- 有利子負債
- D/Eレシオ (倍)



風水力事業

(期初計画からの変更) <受注>

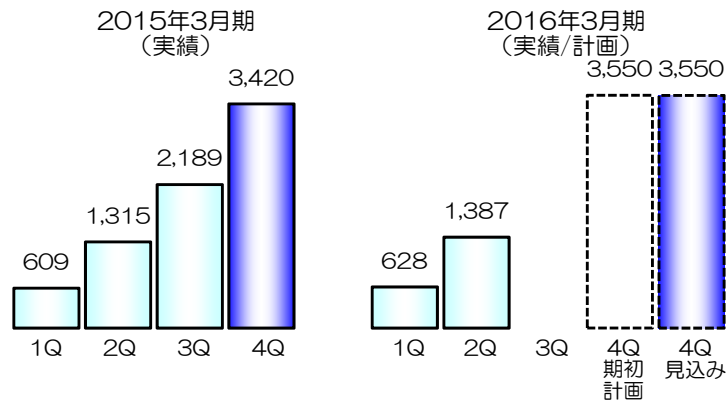
受注



【受注】

- ✓ ポンプ事業は上期の好調さが持続
- ✓ コンプレッサ・タービン事業は顧客の最終投資判断の遅れを受け下方修正

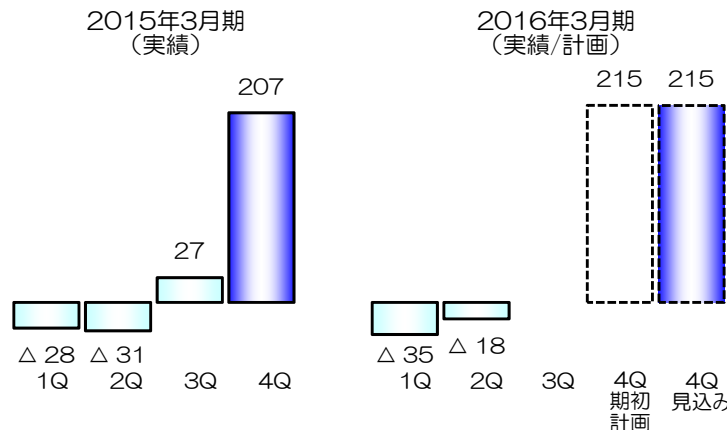
売上



【売上】

- ✓ 期初計画は達成の見込み

営業利益



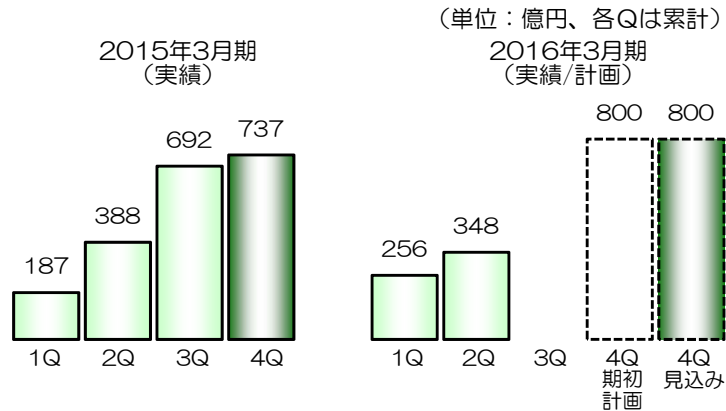
【営業利益】

- ✓ コンプレッサ・タービン事業は外部環境の変化を受けにくいサービス&サポートからの利益が堅調

エンジニアリング事業

(期初計画からの変更) なし

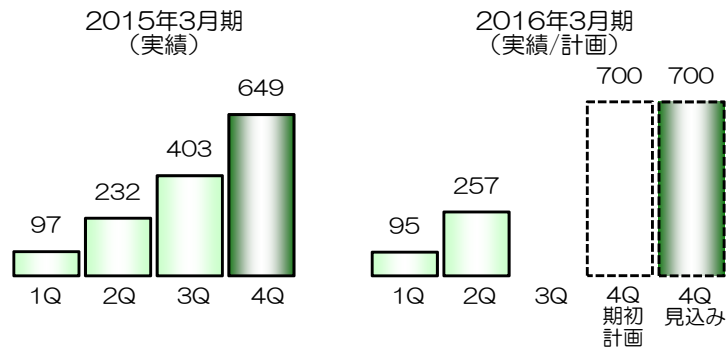
受注



【受注】

- ✓ 当社の強みを活かせるEPC案件やO&Mの長期包括委託案件等を確実に受注していく

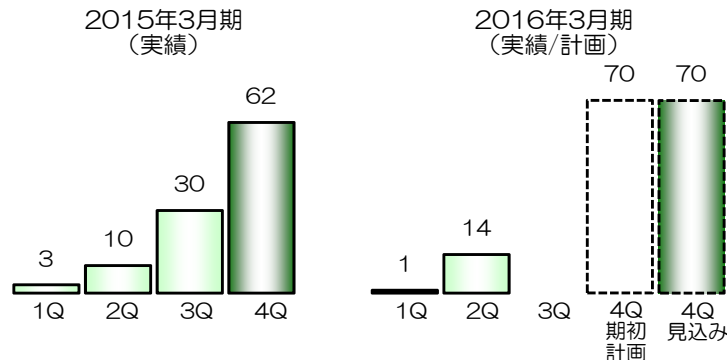
売上



【売上】

- ✓ 豊富な受注残から売上は増加傾向
- ✓ 手持ちのEPC案件について工事進捗は順調

営業利益



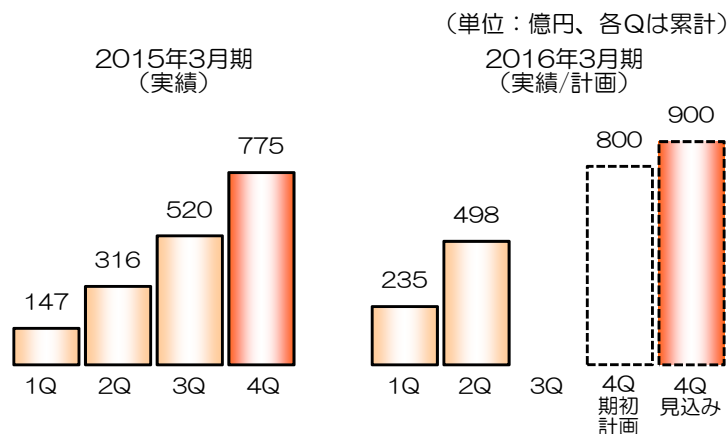
【営業利益】

- ✓ O&M事業の安定した収益構造に変化無し

精密・電子事業

(期初計画からの変更) <受注>

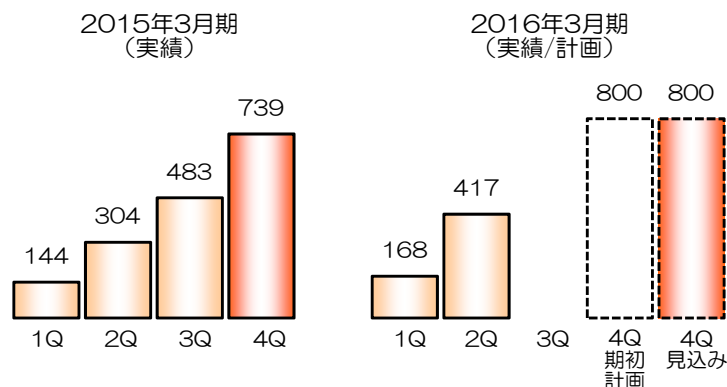
受注



【受注】

- ✓ 半導体メーカーの設備投資は抑制傾向
- ✓ 当社の受注は端境期に
- ✓ ただしCMPは好調な上期実績をうけて通期計画を上方修正

売上



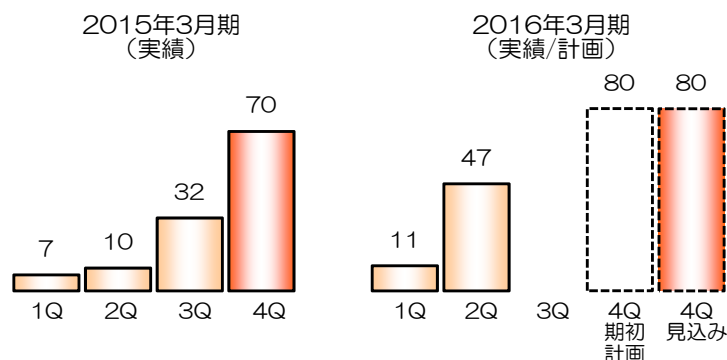
【売上】

- ✓ 期初計画は達成の見込み

【営業利益】

- ✓ 下期の売上計画が達成できれば利益計画も達成される見込み

営業利益



(単位：億円)

	2015年 3月期 (実績) (A)	2016年 3月期 (期初計画) (B)	2016年 3月期 (見込み) (C)	増減 (対計画比) (C-B)	増減 (対前期比) (C-A)
受注高	4,875	5,170	5,170	—	+ 294
売上高	4,826	5,070	5,070	—	+ 243
営業利益	345	370	370	—	+ 24
経常利益	362	370	370	—	+ 7
親会社株主に 帰属する 当期純利益(※)	235	240	240	—	+ 4

※ 2015年3月期は「当期純利益」

為替レート

1ドル = 117.1円
(平均)

1ドル = 115円
(想定)

1ドル = 115円
(想定)

2. 今期の見通しと 経営戦略

業績見通し 事業セグメント別

(2/2)

(単位：億円)

		2015年3月期 (実績) (A)	2016年3月期 (期初計画) (B)	2016年3月期 (見込み) (C)	増減 (対計画比) (C-B)	増減 (対前期比) (C-A)
風水力事業	受注	3,344	3,550	3,450	△ 100	+ 105
	売上	3,420	3,550	3,550	—	+ 129
	営業利益	207	215	215	—	+ 7
エンジニアリング事業	受注	737	800	800	—	+ 62
	売上	649	700	700	—	+ 50
	営業利益	62	70	70	—	+ 7
精密・電子事業	受注	775	800	900	+ 100	+ 124
	売上	739	800	800	—	+ 60
	営業利益	70	80	80	—	+ 9
その他事業 調整	受注	17	20	20	—	+ 2
	売上	17	20	20	—	+ 2
	営業利益	5	5	5	—	△ 0
合計	受注	4,875	5,170	5,170	—	+ 294
	売上	4,826	5,070	5,070	—	+ 243
	営業利益	345	370	370	—	+ 24

海外ポンプ事業の強化 → カスタムポンプのサービス&サポート強化、標準ポンプの拡販

海外拠点の強化

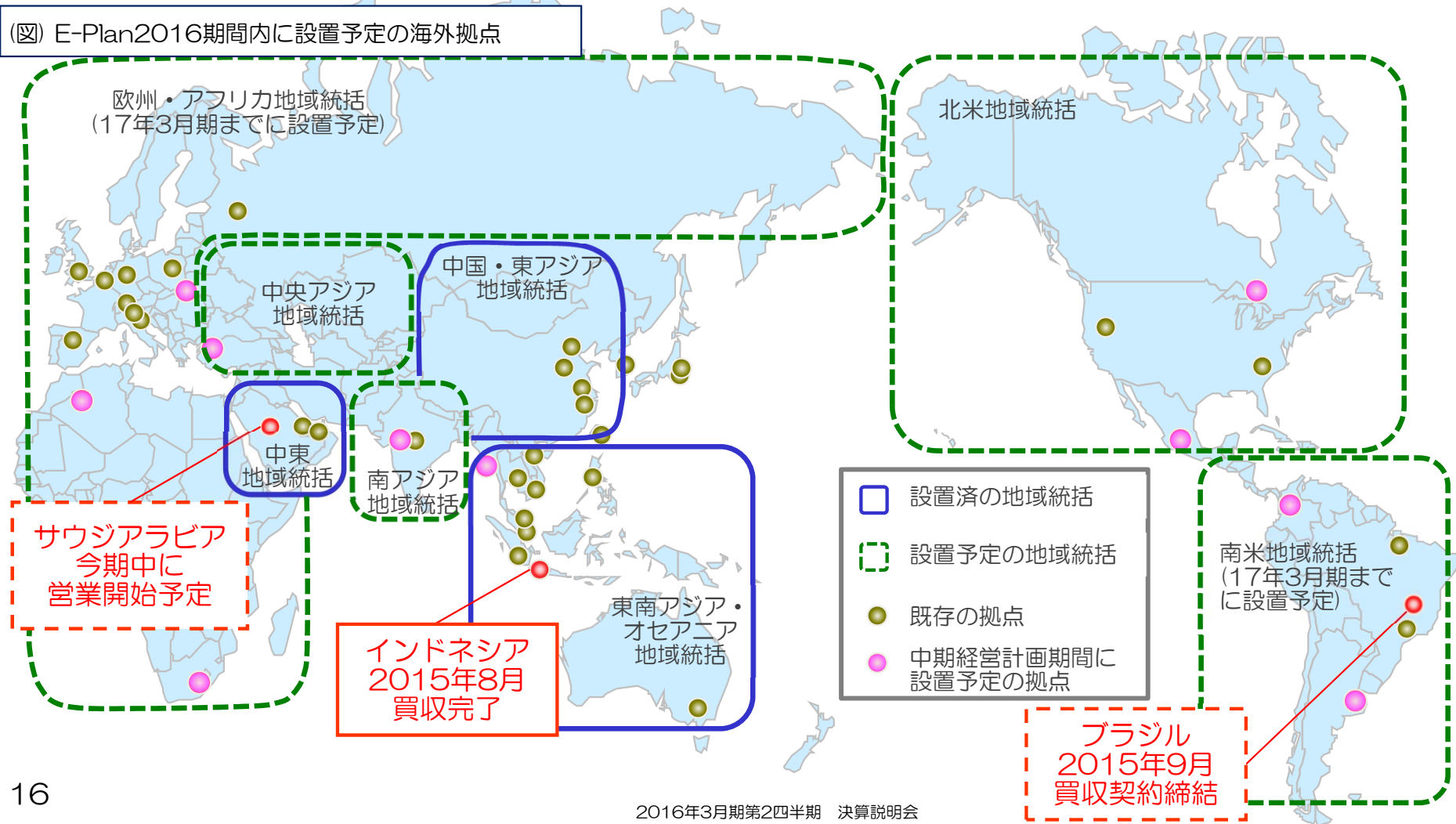
新規拠点の設立と既存拠点の機能強化を以下の手段を用いて実現する

- ・ 自社リソースでの拠点設立
- ・ M&A
- ・ 既存拠点への追加投資
- ・ ローカル企業とのアライアンス強化

製品ラインナップの強化

新製品の開発と早期の市場投入と既存製品の競争力強化を実現する

(図) E-Plan2016期間内に設置予定の海外拠点



東南アジアにおける当社のポンプ事業

→ 東南アジア地域は高成長市場かつ高シェア地域

海外拠点の強化の進捗

- ✓ 本社組織である地域統括事務所で、域内の事業会社を統括
- ✓ 様々な手段による拠点強化の実行
 - 自社リソースでの販売拠点設立（ベトナム南部）
 - サービス会社の買収（インドネシア）
 - 新工場の設立（ベトナム北部）
 - 既存製造拠点への追加投資（フィリピン）
 - ローカルの代理店やサービス会社とのアライアンス強化（フィリピン、タイなど）

⇒ インドネシアの買収先企業は、今後の東南アジアにおけるサービス&サポート戦略上、重要な拠点に

製品ラインナップの強化の進捗

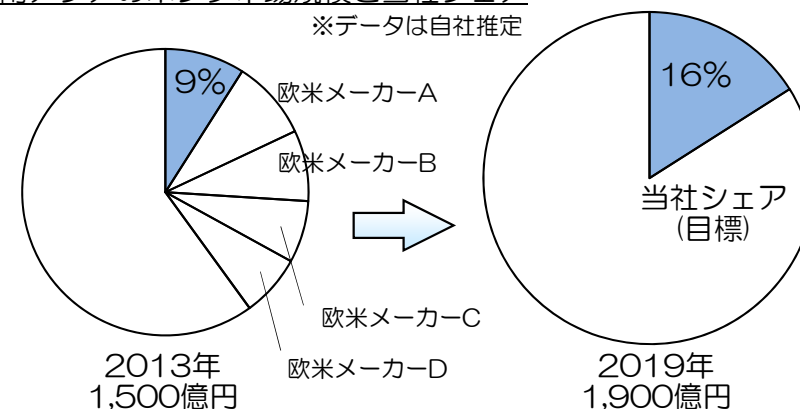
- ✓ 新製品の投入
 - 標準ポンプの新製品(EVMS)を今期中に市場投入予定

⇒ 納期や価格などの製品競争力が高い

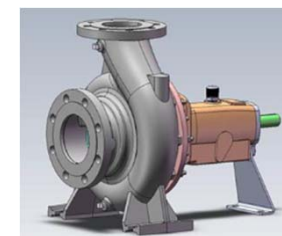
⇒ 今後も新製品を継続的に市場投入

東南アジアのポンプ市場規模と当社シェア

※データは自社推定

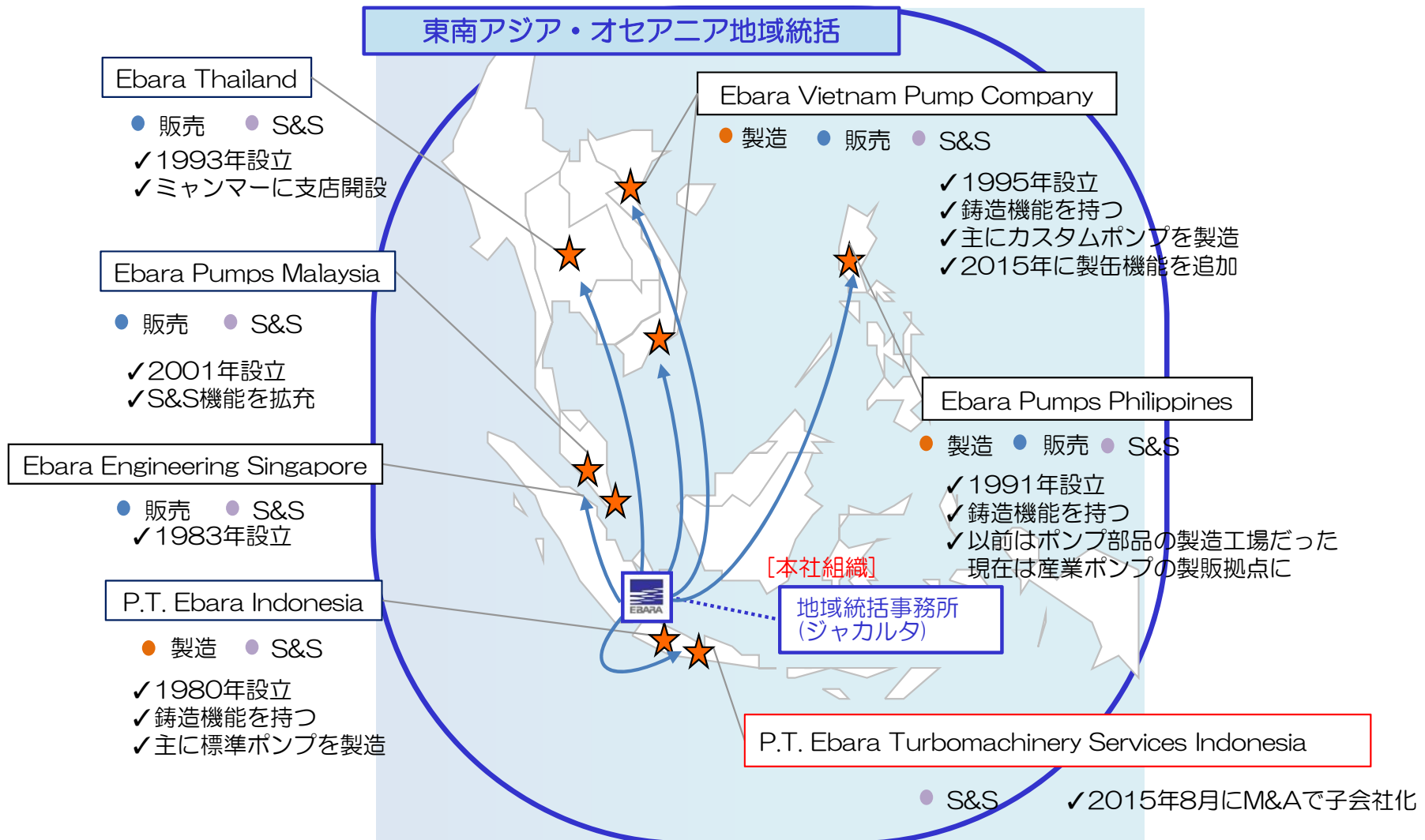
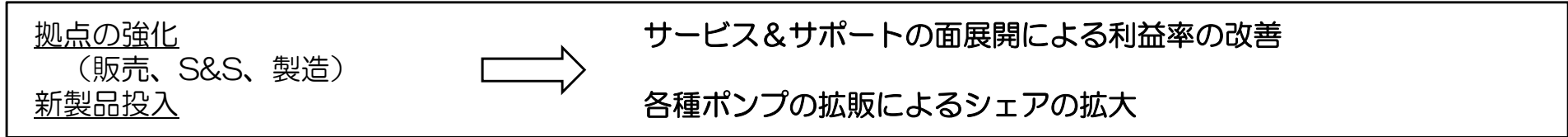


市場投入する
ステンレス製立型多段ポンプ
(EVMS型)



今後市場投入する
新製品

東南アジア地域の体制



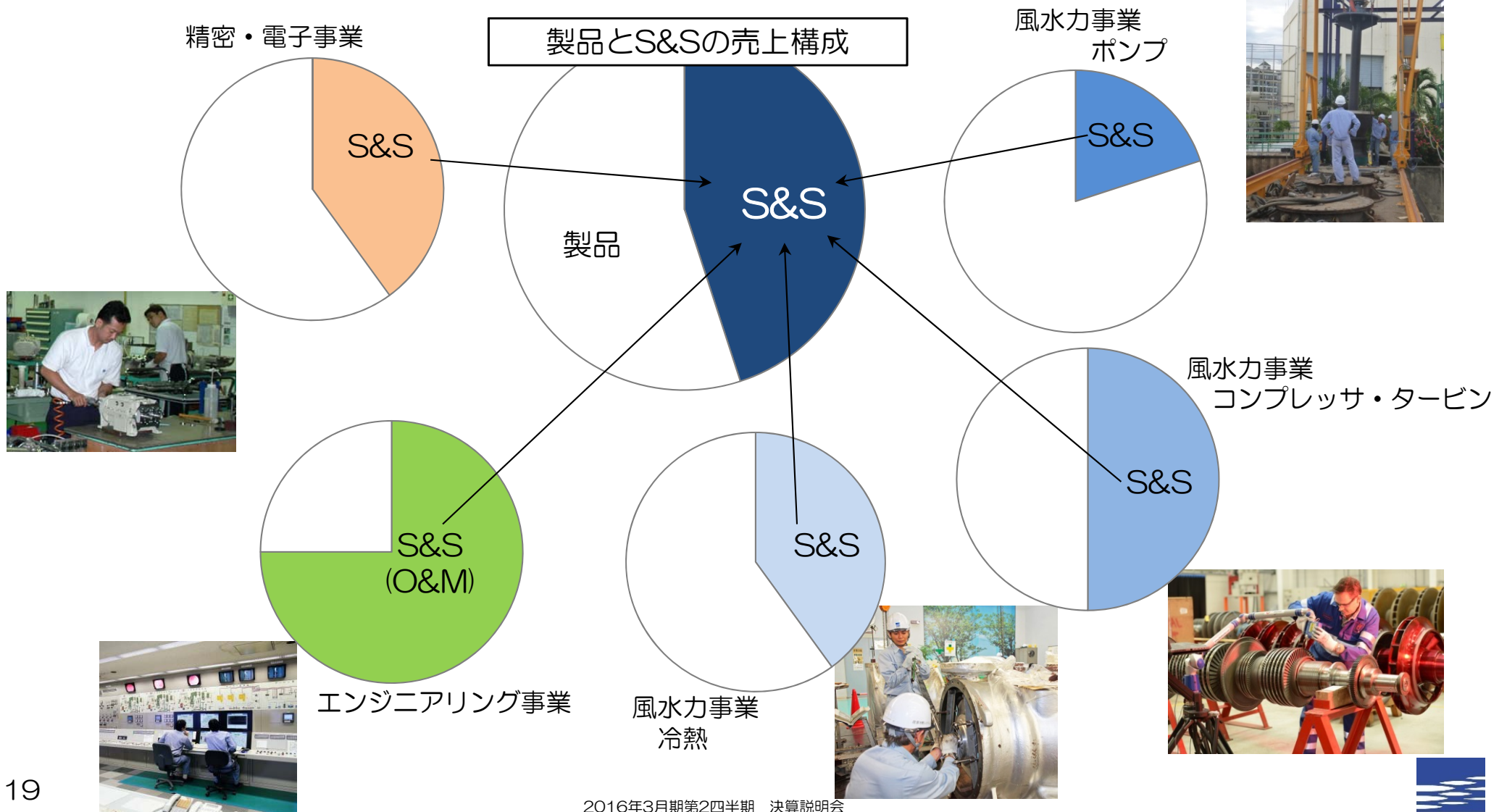
2. 今期の見通しと 経営戦略

外部環境の変化に対する当社事業の特性について (1/1)

サービス&サポート(S&S)事業の売上比率は全社で約4割 (2015年3月期)

→ 納入した当社設備が稼働し続ける限り、サービス&サポート事業の需要は安定的に発生する

→ 外部環境の悪化局面においても、当社グループが受ける負の影響は限定的



本資料に記載されている業績予想・計画ならびに将来予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および、将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定、を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。